



日本海海戦を  
転機とした男たち

4

# 上村彦之丞 「無能」との評価を覆した男

「上村は無能なり」「露探（ロシアのスパイ）提督」

第二艦隊司令長官・上村彦之丞が、日露戦争中に浴びせられた言葉です。

日露開戦直後、玄界灘付近で運送船「常陸丸」「佐渡丸」がロシアのウラジオ艦隊に相次いで撃沈されるといふ事件が発生。このとき、警備にあたっていたのが第二艦隊であり、上村は世間から批判されることとなったのです。

濃霧により敵艦を見つけれなかった旨を弁明すると、「濃霧ではなく無能では」と叩かれ、ロシアのスパイと揶揄されたうえに、自宅に石を投げつけられたり、「切腹しろ」との投書が届く事態にまで発展します。

しかし、上村はそうした批判に屈しませんでした。その後、上村は蔚山沖でウラジオ艦隊を発見し、壊滅寸前に追い込んで汚名返上。さらには日本海海戦でも、完勝をもたらす好判断をみせることとなります。

連合艦隊は対馬海峡でバルチック艦隊と決戦。上村率いる第二艦隊は、東郷平八郎司令長官率いる第一艦隊の後方に

上村彦之丞  
(国立国会図書館蔵)

従って攻撃していました。精度の高い日本

の砲撃にバルチック艦隊は劣勢に追い込まれますが、午後二時五十六分頃、旗艦「スワロフ」が北方向に旋回。東郷はスワロフを追うべく、北への一斉回頭を指示しました。

ところが、このとき第二艦隊は、その命令に反する行動に出ます。第二艦隊参謀の佐藤鉄太郎は、スワロフは集中砲火を浴びて舵が壊れたため北に逸れただけで、バルチック艦隊主力は南方へ逃げようとしていると進言。上村はそれを容れ、さまざま第二艦隊を隊列から離脱させ、直進したのです。

その読みは、見事の中。第二艦隊は先頭を進む敵艦「ポロジノ」を押さえて近距離から砲撃を浴びせ、バルチック艦隊を壊滅させることに成功するのです。もし上村が東郷の命令に従っていたら、危うくバルチック艦隊の逃走を許してしまうところでした。

戦況を見極め、ときには命令に反してでも己の判断を信じる――上村の行動は戦後、ロシア側からも「日本将官の凄さを物語る出来事」として高く評価されました。

無能と難じられても、決して折れなかった上村だからこそ、成し得た業績といえるのかもしれない。



日本海海戦で旗艦として戦った戦艦「三笠」は、大正15年（1926）に記念艦となり、現在の位置に固定されました。

「三笠」入口で「本誌を見た」と言われた方は入艦料を100円値引きします（一般のみ）。

員数	区分	一般	シニア	高校生
1名		600円	500円	300円
20名以上		500円	500円	200円

入艦料

観覧時間	4月～9月	3月・10月	11月～2月
	9:00～17:30	9:00～17:00	9:00～16:30



世界三大記念艦

〒238-0003 神奈川県横須賀市稲岡町 82-19

●JR「横須賀中央駅」から徒歩15分 ●JR「横須賀駅」から三笠循環バスで「三笠公園」下車

TEL.046-822-5225 <https://www.kinkan-mikasa.or.jp/>

船の上の  
歴史ミュージアム

